

琵琶湖の保全及び再生に関する施策の実施状況

- ・ 琵琶湖の水草等クリーンアップ事業
- ・ 侵略的外来水生植物の除去
- ・ 水産資源の回復の取組
- ・ 外来魚対策の取組
- ・ 琵琶湖活用推進事業
- ・ 「びわ湖の日」関連事業

滋賀県

施策実施状況（滋賀県）琵琶湖の水草等クリーンアップ事業



背景

水草の大量繁茂および侵略的外来水生植物の生育面積の拡大は、特に南湖において生活環境や漁業さらには生態系にも多大な影響を与えており、適正な状態に管理することが課題となっている。

このことから、関係機関連携による集中的な水草除去などによる改善を図るとともに、侵略的外来水生植物の徹底的な駆除や巡回・監視、早期駆除を行う。さらに、企業や大学などへ対策技術を広く求め、水草等対策の高度化を図る。

これらを通じて、望ましい水草の状態を目指すとともに、侵略的外来水生植物を早期に管理可能な状況にまで減少させ、南湖の生態系・漁業の再生につなげる。

主要な事業の概要

1 暮らしを守るための除去

表層刈取りにより腐敗臭を放つ漂着水草から県民の生活環境を守るとともに、航路確保や景観改善を図る。

- 1-1 水草刈取事業
- 1-2 体験施設等の水草除去支援事業（琵琶湖政策課）
- 1-3 矢橋帰帆島中間水路維持管理業務（下水道課）
- 1-4 補助河川総合流域防災事業（流域政策局）

2 生態系保全のための除去

根こそぎ除去を、年間を通じて南湖中央部で実施し、生態系と湖底環境の改善を図る。

- 2 水草除去事業（琵琶湖政策課）

3 漁場再生のための除去

水草除去や種苗放流を強化して、漁場の再生を図り、在来魚介類資源の回復を目指す。

- 3 琵琶湖漁業再生ステップアッププロジェクト（水産課）

4 侵略的外来水生植物の除去

オオナミズキ、キバイ等の外来水生植物の徹底的な駆除や巡回・監視、早期駆除を行い、管理可能な状況にまで減少させる。

- 4-1 侵略的外来水生植物戦略的防除推進事業
- 4-2 外来生物防除対策事業（自然環境保全課）
- 4-3 琵琶湖漁業再生ステップアッププロジェクト（水産課）

5 知見を活かす

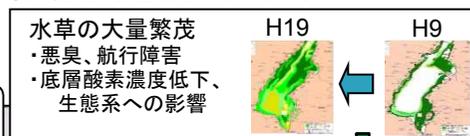
企業や大学などが実施する、水草等対策の新たな技術等の開発や研究の支援を行うことで、水草等対策の高度化を図る。

- 5 水草等対策技術開発支援事業（琵琶湖政策課）

たい肥化等

焼却・埋立

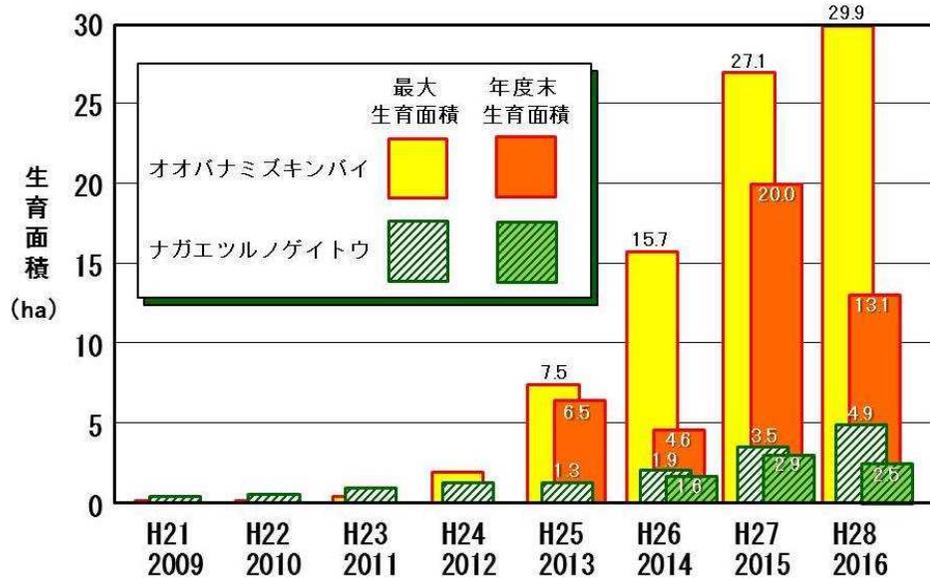
高度化



望ましい水草の状態
1930～50年代



(1) オオバナミズキンバイ等の生育面積の推移



(2) 影響・課題

- 船舶の航行障害や漁具への絡み付きといった影響が既に生じているほか、水産資源への悪影響、水田への拡大を危惧
- 本年6月には、瀬田川洗堰下流側や琵琶湖疏水が流入する鴨川など、琵琶湖下流域でも生育を確認



(3) 平成29年度の取組

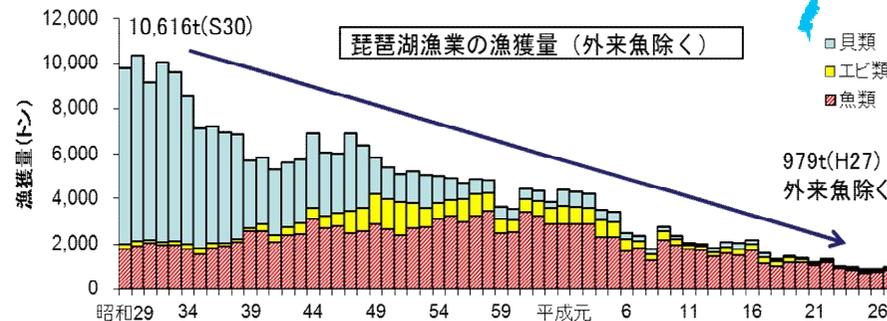
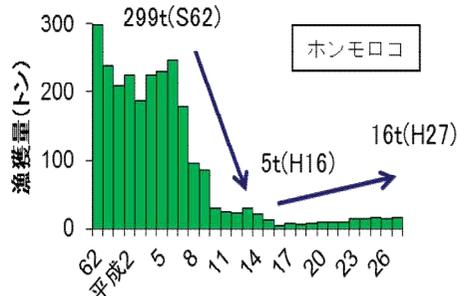
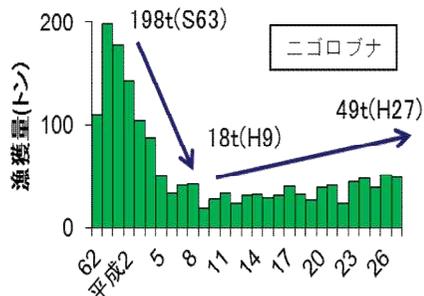
- ① 徹底的な駆除
- ② 駆除済区域の巡回・監視および再生個体の早期駆除
- ③ 流出・拡大防止策（流出防止ネット・遮光シート等）
- ④ 発生する駆除個体の処分
- ⑤ 生育面積調査、モニタリング等の試験調査

- ・侵略的外来水生植物戦略的防除推進事業
 - ＜琵琶湖外来水生植物対策協議会への補助＞
 - 対象区域：琵琶湖および周辺水域
 - ＜(新) 生物多様性保全回復整備事業(県直営)＞
 - 対象区域：琵琶湖国定公園を除く区域
- ・琵琶湖漁業再生ステップアッププロジェクト事業
- ※ 造成ヨシ帯等における駆除のほか、「漁場再生のための除去」の中でも一部実施

⑥ 広報・啓発、ボランティア等多様な主体との連携による駆除

- ・外来生物防除対策事業





フナ・モロコ漁獲量は回復の兆し→本格的な回復には至らず

琵琶湖全体の漁獲量は、下げ止まり感はあるが、依然、低い水準

水産資源回復のため、漁場環境の整備や種苗放流を実施

■砂地造成(セタシジミ)・・・琵琶湖南湖で砂地造成+稚貝放流
これまでに約58haを造成 (H28年度末)

■ヨシ帯造成(ニゴロブナ)・・・魚類の産卵繁殖機能を考慮して整備
これまでに約30haを造成 (H28年度末)
奥行きを30m以上で琵琶湖の水位変動に対応
琵琶湖標準水位マイナス30～50cmの緩勾配で造成

■水産多面的機能発揮対策事業
浅場、ヨシ帯および河川などでの環境保全活動

■魚のゆりかごである南湖の再生

【課題】

- 水草の大量繁茂や外来魚の繁殖により、南湖再生が困難。
- 水草が南湖の9割繁茂→湖底の泥化、低酸素化
- 関係機関が統合的に事業規模を拡大し、環境保全対策に取り組むことが重要

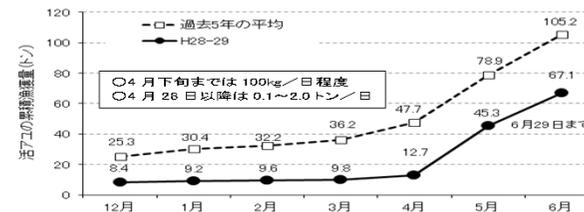
■種苗放流 (H28実績)

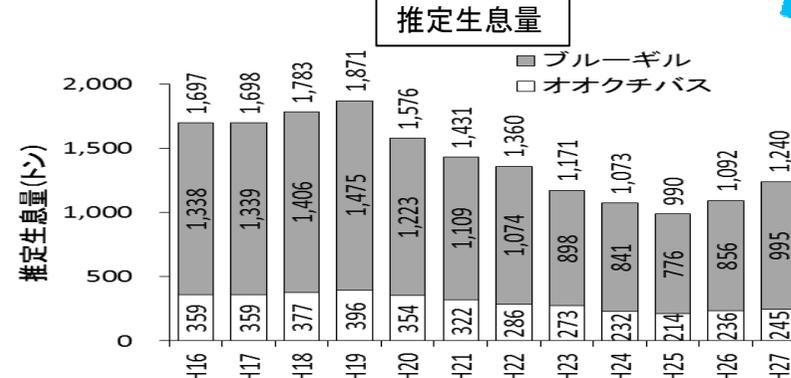
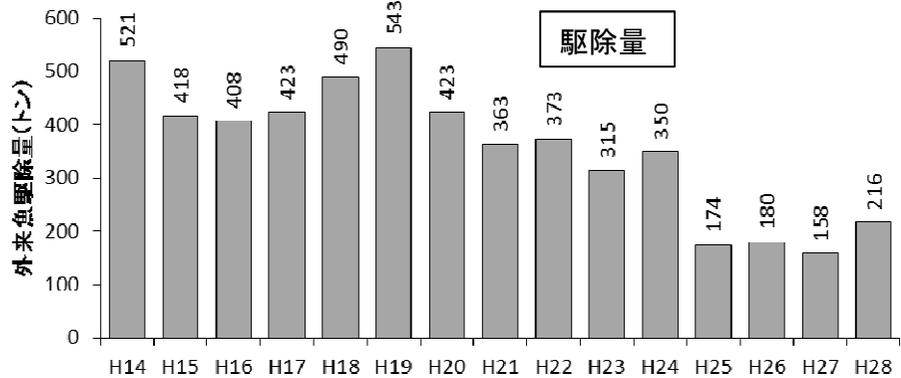
水産重要種や環境保全に寄与する魚介類を放流

①ニゴロブナ	全長 20mm	922万尾
	全長120mm	87万尾
②ホンモロコ	全長 20mm	779万尾
③アユ	全長 5mm	14億尾
④セタシジミ	殻長0.3～0.4mm	1,190万個
⑤ビワマス	全長 60mm	70万尾
⑥ウナギ	体重50g	1トン
⑦ワタカ	全長50mm	27万尾

■琵琶湖での今期アユ漁の過去に例のない不漁

県はアユの資源維持対策を進めるほか、関係機関が連携して国立環境研究所琵琶湖分室の助言をいただきながら原因解明を進めている → 国関係の水産関係研究機関の技術的助言等の支援も必要





オオクチバスやブルーギルなどの外来魚の生息量は、これまでの対策により減少してきたが、気象条件の影響による駆除量の低下などにより平成25年を境に増加に転じた。

琵琶湖における生態系や漁業への被害を防止するため、徹底的な防除を実施

○駆除促進対策事業

漁業者による捕獲駆除を支援

○繁殖抑制対策事業

外来魚稚魚の捕獲駆除を支援

○外来魚産卵期集中捕獲事業

琵琶湖南湖や西の湖での電気ショッカーボートでの産卵期集中捕獲

○外来魚駆除フォローアップ事業

県主導による漁法・時期を指定した外来魚集中駆除

○外来魚回収処理事業

捕獲した外来魚の回収および有効利用を支援

○「琵琶湖のレジャー利用の適正化に関する条例」により、釣り上げた外来魚のリリースを禁止し、回収ボックス、回収いけすを設置して回収



漁業者(刺網)による捕獲



電気ショッカーボートによる捕獲



回収した外来魚



回収ボックス



背景

- 「琵琶湖の保全及び再生に関する法律」が公布・施行（H27年9月）
- 法に基づき、国が「琵琶湖の保全及び再生に関する基本方針」を策定（H28年4月）

県は、国の基本方針を勘案し、「琵琶湖保全再生施策に関する計画」を策定（H29年3月予定）
★計画案 本文 7(1)
琵琶湖の「保全」と「活用」のさらなる循環に向けた方策を検討

琵琶湖を「守る」取組
これまで県をあげて実施→取組の継続・強化

【例】



ヨシ植栽

外来魚駆除

オオバナミズキンバイ駆除

加えて

琵琶湖を「活かす」取組が必要

※琵琶湖の保全再生に向け、琵琶湖の価値を最大限に活かすことにより、琵琶湖への理解と関心を深めていただくことが不可欠

- ◆ 琵琶湖の価値の活用が不十分
- ◆ 琵琶湖と人との関わりの希薄化

新 琵琶湖活用推進事業

- 琵琶湖活用の方向性検討
(仮称)琵琶湖活用推進協議会を設置し、活用の方向性を検討
- 基礎調査
国内外の活用の先進事例を調査



その他、琵琶湖を「活かす」関連事業

新 エコツーリズム推進支援事業

- 情報収集・共有
現状把握のための調査を行い、ネットワーク会議を開催して情報共有
- 情報発信
ホームページやパンフレットにより発信



拡 水草等対策技術開発支援事業

- 技術等の提案募集、支援
企業や大学等から水草・オオバナミズキンバイの除去や有効利用に係る新たな技術提案を募集し、開発や研究を支援

拡 しがの林業・木材産業強化対策事業

- 県産材流通体制の整備
B材(小曲がり材)を中心とした県外大型工場の需要に対応した体制整備を図るとともに、地域で生産されたA材(直材)の地域での有効利用の仕組みを構築

「山を活かす、山を守る、山に暮らす」都市交流モデル事業

- 新たな雇用と定住の促進
森林山村地域に埋もれる資源を再発掘・活用することで、新たな雇用の創出と定住を促進



琵琶湖を「守る」ことと「活かす」ことの好循環をさらに推進

施策実施状況（滋賀県） 「びわ湖の日」 関連事業の概要



1. 事業の趣旨・目的

7月1日「びわ湖の日」

「琵琶湖をきれいにしよう」、「豊かな琵琶湖を取り戻そう」、「琵琶湖にもっと関わろう」の3つの呼びかけにより、環境保全への理解と認識を深め、保全活動への参加意欲を高める。

2. 具体的な事業展開

1) 琵琶湖をきれいにしよう

○びわ湖を美しくする運動
・びわ湖の日を中心に県内全域で毎年10万人以上が取り組む清掃活動（平成29年度 約13万人予定）

2) 豊かな琵琶湖を取り戻そう

○ガ イルガ イワの駆除、ニゴロブナ稚魚の放流
○オオバナミズキンバイの駆除
○びわこルールキッズ2017

3) 琵琶湖にもっと関わろう

<今年度の特徴(多くの方に琵琶湖に関わっていただくための重点項目)>

「琵琶湖周航の歌」
100年との連携

若い世代への
アプローチ強化

ソーシャルメディアの
有効活用

下流域への
発信強化

県内での事業展開

○包括連携協定締結事業者との協働取組

- ・県産食材を中心にした関連商品の開発・販売（セブン-イレブンジャパン・平和堂）
- ・「琵琶湖の恵みコーナー」設置（平和堂・イオン）
- ・大型商業施設（ビバシティ彦根）での啓発ブース設置

○県内大学との協働取組

- ・啓発ポスター、クリアファイル作成（成安造形大学）
- ・「びわ湖の日」連続講座開催（3回）（立命館大学）
- ・学食で県産食材のメニュー提供（龍谷大学）

○県内小学校との連携

- ・小学校の学校給食への旬の湖魚を提供
- ・小学校の給食時間等に音声ストーリー放送

○#びわ湖 写真投稿呼びかけ

○パネル展

- ・琵琶湖周航の歌資料館
- ・県立図書館



滋賀県



県外（下流域）での事業展開

○パネル展示・出前講座

- ・琵琶湖疏水記念館でのパネル展示（京都市と連携）
- ・私立東山中学校（京都市内）への出前講座（3回）
- ・私立清風南海高校（大阪府内）への出前講座、
県内フィールドワーク

【その他】

- ・吹田市共催によるパネル展示、出前講座
- ・京都環境フェスティバルでのブース出展（京都府と連携）

○連続講座

- ・滋賀県提供龍谷講座（大阪府内）
（龍谷大学との連携）



平成29年度「びわ湖の日」ポスター
デザイン：成安造形大学 岩佐南実さん